

三三〇二番

紀伊の国の室の江の辺に 千年に 障ることな
く 万代に かくしもあらむと 大舟の 思ひ頼
みて 出立の 清き渚に 朝なぎに 来寄る深海
松 夕なぎに 来寄る繩のり 深海松の 深めし
児らを 繩のりの 引けば絶ゆとや 里人の 行
きの集ひに 泣く子なす 行き取り探り 梓弓
弓腹振り起こし しのぎ羽を 二つ手挟み 放ち
けむ 人し悔しも 恋ふらく思へば